



# SASEの基礎を解説！ ～SASE初級編～



# もくじ

|                        |    |
|------------------------|----|
| ■はじめに                  | 03 |
| ■SASEの市場について調べてみました！   | 04 |
| ■SASEとは                | 05 |
| ■SASEが注目される背景          | 07 |
| ■SASEのメリット             | 08 |
| ■SASEのデメリット            | 11 |
| ■当社のお客様に提案したSASE導入事例   | 12 |
| ■まとめ                   | 14 |
| ■課題解決に繋がる当社のネットワークサービス | 15 |
| ■BM Xについて              | 16 |
| ■BM Xラインナップ            | 17 |
| ■会社概要                  | 18 |



## 「話題のSASEって何なの？」

従業員がテレワークで利用するクラウドサービスが広がったことにより、セキュリティ担当者の負担増大が大きな課題となっています。

最近では、クラウドサービスを標的としたサイバー攻撃も増加しており、クラウドサービスの利用によって従業員の利便性が向上した一方で、セキュリティリスクは高くなったと言えるでしょう。業務環境の変化やクラウドサービスの利用に合わせて、従来のセキュリティ対策の改善やセキュリティ担当者の負担軽減への取り組みが求められるなか、新しいセキュリティモデルとして今、SASEが注目されています。今回は、そんなSASEについて調査しました！





「SASEの浸透と提供ベンダーの増加により、  
2022年度、2023年度ともに**40%近い成長率を継続！**」

「ランサムウェア攻撃などのサイバー攻撃の増加に伴い、境界防御型セキュリティからゼロトラスト型セキュリティへの進化が求められています。

しかし、全面的にゼロトラスト型セキュリティを導入することは難しいため、部分的なゼロトラスト型セキュリティともいえる、CASBやZTNAなどのセキュリティソリューションの組み合わせであるSASEを導入するユーザーが増えています。

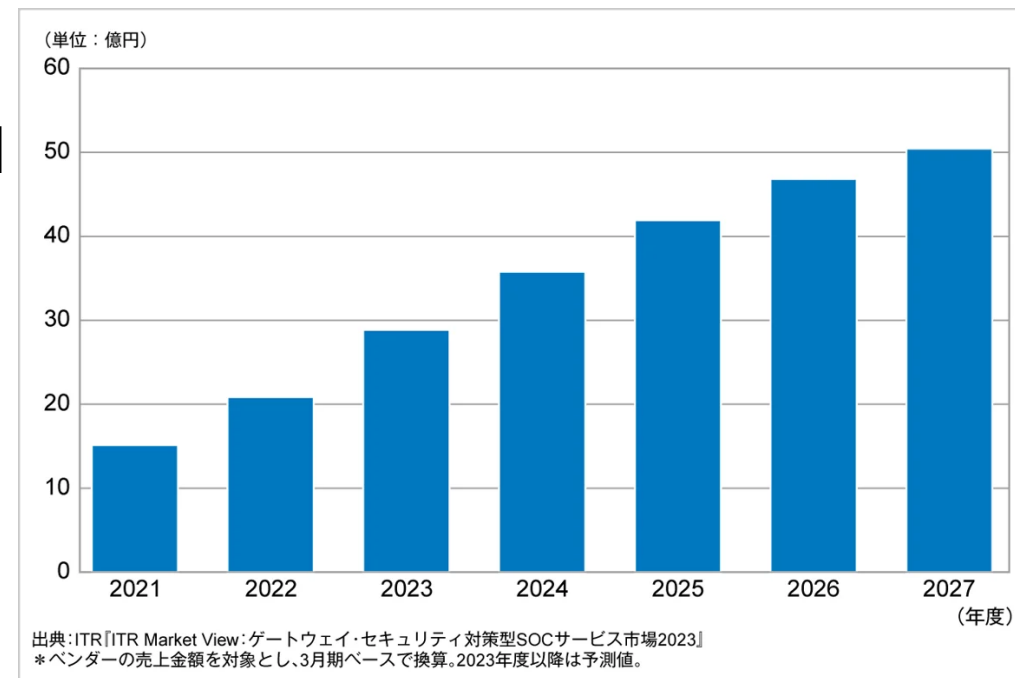


図. SASE運用監視サービス市場規模推移および予測（2021～2027年度予測）

# 「そもそもSASEって？」

SASEとは、クラウド上で全てのセキュリティを設置することで、社内だけでなく、社外でも同等のセキュリティレベルを確保するセキュリティシステムとなります。

昨今トレンドになっている**Secure(セキュア) Access(アクセス) Service(サービス) Edge(エッジ)**と呼ばれる**SASE(サッシー)**が実施できゼロトラストでセキュリティ対策を行えます。

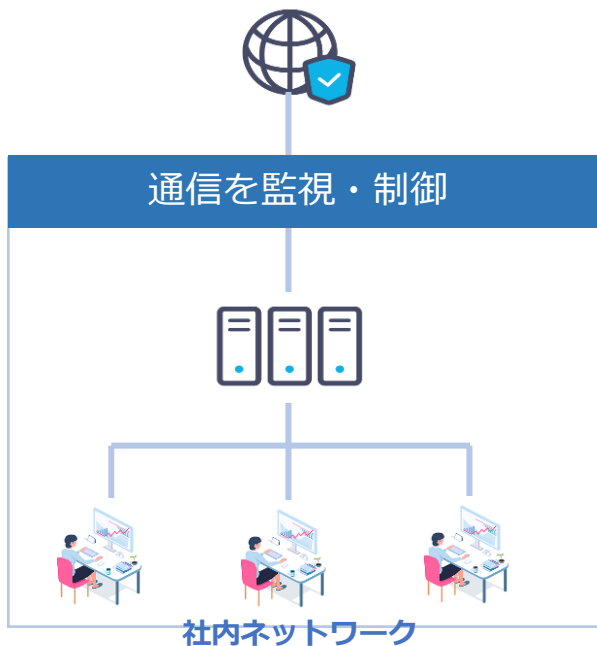
テレワークや営業の待ち時間など社外から、インターネットにアクセスする場合、VPNで社内ネットワークにアクセスするのが一般的ですが、全てのインターネットアクセスが社内ネットワークに集中するため、社内の回線に負荷がかかっておりました。

クラウドでUTM機能を提供できるSASEにより、社内ネットワークにわざわざ見に行かずとも、**セキュリティレベルを保ちつつ、直接インターネットにアクセスできる**ようになりました。



## SASEの主な機能

- **SWG(Secure Web Gateway)** 社外へのアクセスを安全に行うためのプロキシ機能
- **CASB(Cloud Access Security Broker)** クラウドサービスの利用状況を一元管理できる機能
- **FWaaS(FireWall as a Service)** クラウドサービスによるファイアウォール機能
- **ZTNA(Zero Trust Network Access)** 「何も信用しない」というゼロトラストの考え方で社内へのアクセスをアプリケーションレベルで制御する機能



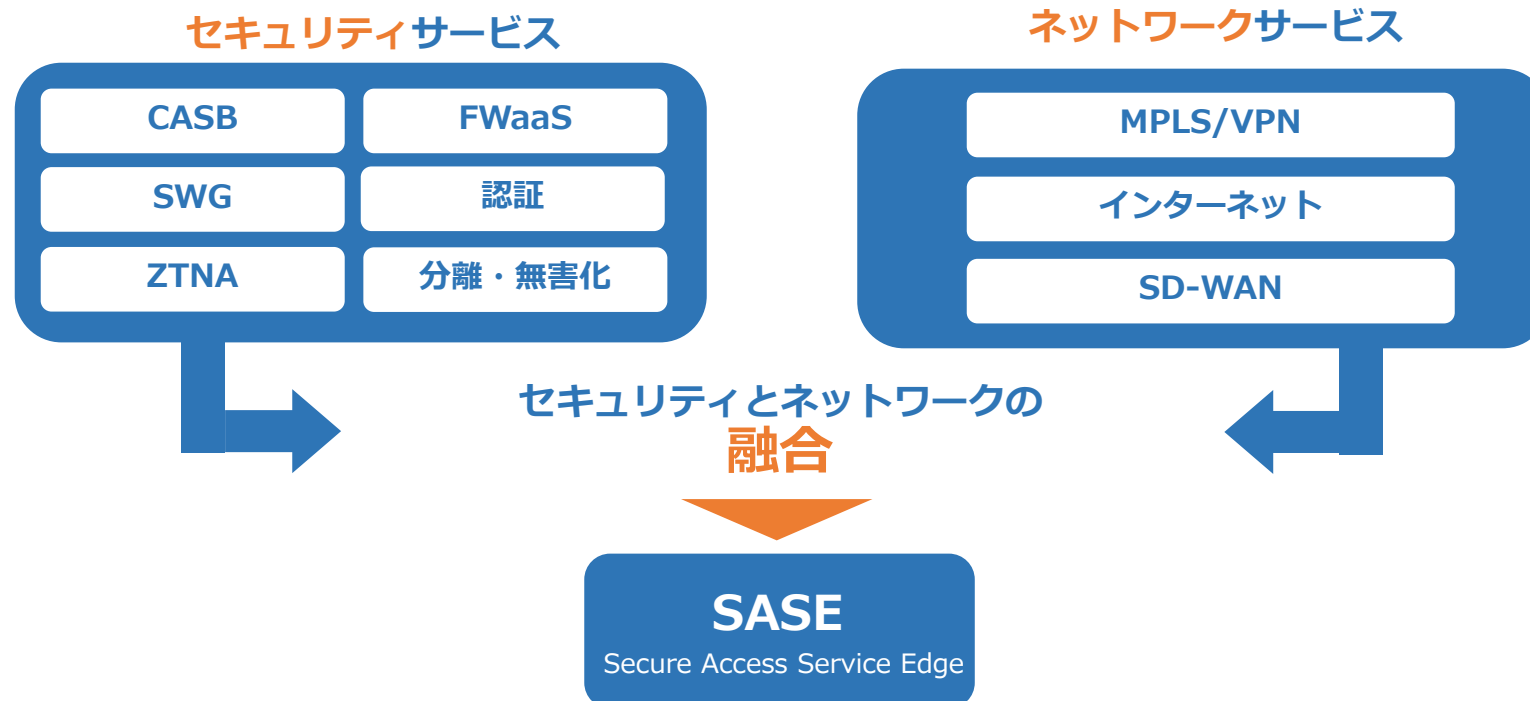
従来のセキュリティ対策



SASEで実現するネットワークセキュリティ

## SASEが注目される背景

SASE（Secure Access Service Edge）が注目を集めている背景には、**テレワークの増加とクラウド利用の拡大**があります。企業が提供するアプリケーションやネットワークがインターネット経由で利用されるようになり、クラウド上のシステムへアクセスすることが一般的になりました。SASEは、クラウドベースでセキュリティ機能を統合し、ネットワークのアクセスポイントごとに一貫したセキュリティポリシーを適用することで、高いセキュリティレベルを実現します。これにより、社内外の場所にかかわらず、安全なアクセスが保証されるようになります。



01

## 運用負荷の軽減とコスト削減

SASEは、クラウドベースでネットワークとセキュリティ機能を統合し、**運用の簡素化**と**コスト削減**を実現します。特に、SWGやCASB、ZTNAなどのセキュリティ機能を一元的に管理することで、従来必要だった複数のセキュリティシステムの管理や監視の手間を軽減。さらにはクラウドサービスとして提供されることで必要に応じて容易にシステムの拡張や縮小が可能になり、固定的なインフラ投資の削減にも寄与します。





02

## リモートワーク時のセキュリティ対策強化

テレワークとハイブリッドワークの広がりにともない、SASEはリモートワークのセキュリティ対策を強化する手段として有効です。日々増加する社外からの機密情報へのアクセスに対して、企業はSASEを利用することで**サイバー攻撃のリスクを効果的に低減できます**。また、SASEのWebフィルタリングやアクセス制御機能は、リモートワーク環境でのサイバー攻撃や情報漏えいリスクを低減し、安全なビジネス環境を提供します。



03

## クラウドサービスへの安全かつ快適なアクセス

SASEをクラウドサービスとして提供することで、クラウドサービスとテレワークの普及による通信トラフィックの増加に対応し、通信品質を維持します。この柔軟性により、企業は必要に応じて容易にシステムを拡張または縮小でき、変化するビジネスニーズに迅速に対応可能です。結果として、通信の安定性を確保し、**クラウドサービスやWeb会議を快適に利用できるビジネス環境**を実現します。



一方でこんなデメリットも・・・

### 複雑な操作が必要になることが多い



SASEでは、1つの製品に複数のセキュリティサービスやネットワーク管理機能が搭載されています。**機能が多い分、管理画面やその操作は複雑になりがち**です。

### トラブルが起きた場合、ネットワーク接続ができなくなる



SASEのデメリットは、トラブルが起きた場合ネットワーク接続ができなくなるという点です。SASEを導入すると、クラウドサービスやデータセンターなどへのアクセスは基本的にSASEを介して行われます。SASEにシステム障害などのトラブルが発生してその回線が利用できなくなってしまうと、**ネットワーク接続ができなくなり、業務停止に陥るリスク**があるのです。

## 長年ブラックボックス化していた ネットワークを整理し可視化！ SASEを合わせることで、セキュリティと運用管理をクラウドへ

業種 : 製造販売業  
規模 : 中小企業  
拠点数 : 国内4拠点

### 課題

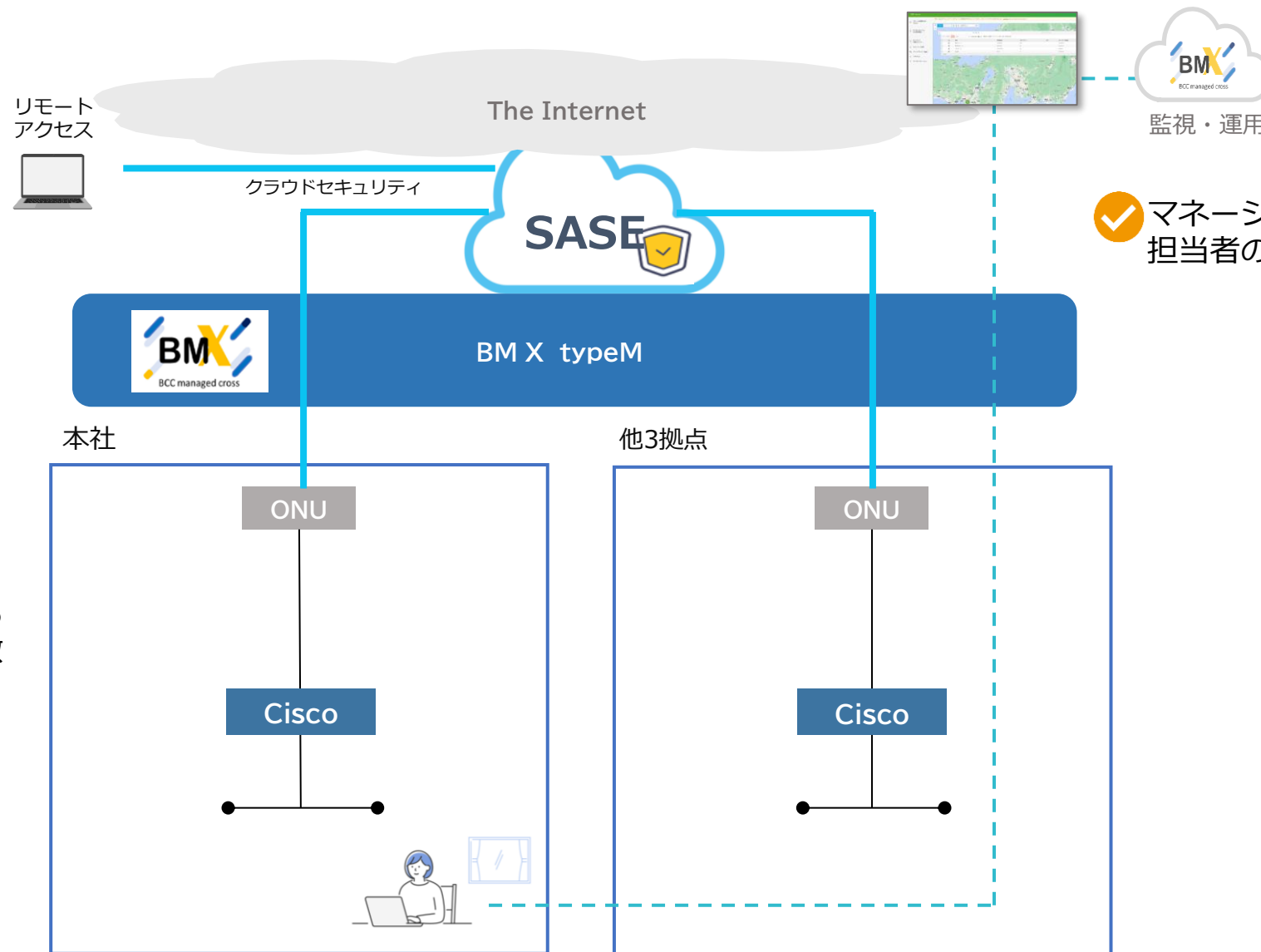
- ！ 前任が1人でシステムを運用しておりブラックボックス化していた。
- ！ 運用管理やセキュリティの観点でオンプレミスからクラウドへの移行を検討していた。
- ！ 自社でセキュリティを設定していたため業務に支障が出ていた。

### 導入後

- ✓ ネットワーク可視化とクラウド管理に特化したルーターと無線アクセスポイントを導入
- ✓ SASEサービスを導入しセキュリティをクラウド化することで負担なくセキュリティレベルを向上
- ✓ SASEサービスと連携可能な リモートアクセスサービスを導入し社外端末もセキュリティを一元化

## 当社のお客様に提案したSASE導入事例

### 導入後



✓ 社外端末も社内と同じセキュリティで統一

✓ マネージド+クラウド化で担当者の負荷が軽減

✓ 各拠点から直接インターネットへ抜ける構成で帯域の負荷を分散

ネットワークセキュリティの新しいアプローチとして、SASEは今後のビジネス環境においてますます重要な役割を果たすと考えられます。

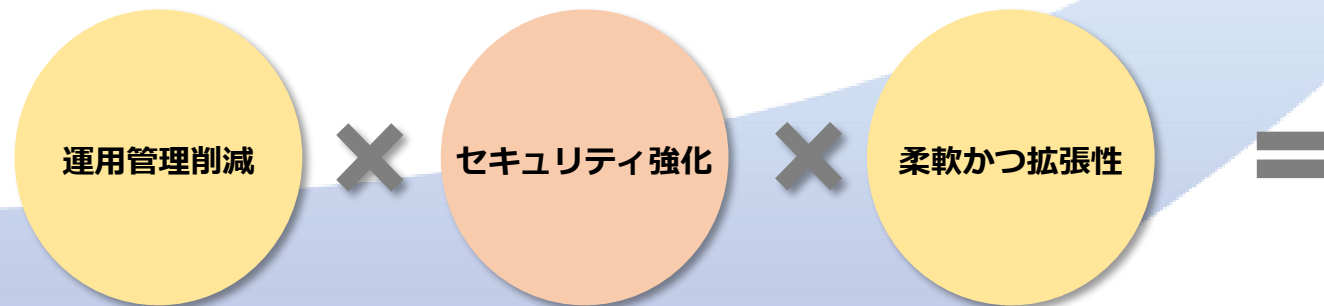
SASEは現代のネットワーク利用や、セキュリティにまつわる環境に対応した新しい概念です。用途ごとに混在するシステムの数が増え、運用や管理が複雑化している状況は、業務面のデメリットだけでなく、セキュリティの潜在的なリスクも抱えることにもなります。SASEを導入することにより、一元化されたセキュリティ管理を実現し、業務効率や管理コストの向上、そしてその結果による企業価値アップにもつながります！



## 課題解決に繋がる当社のネットワークサービス

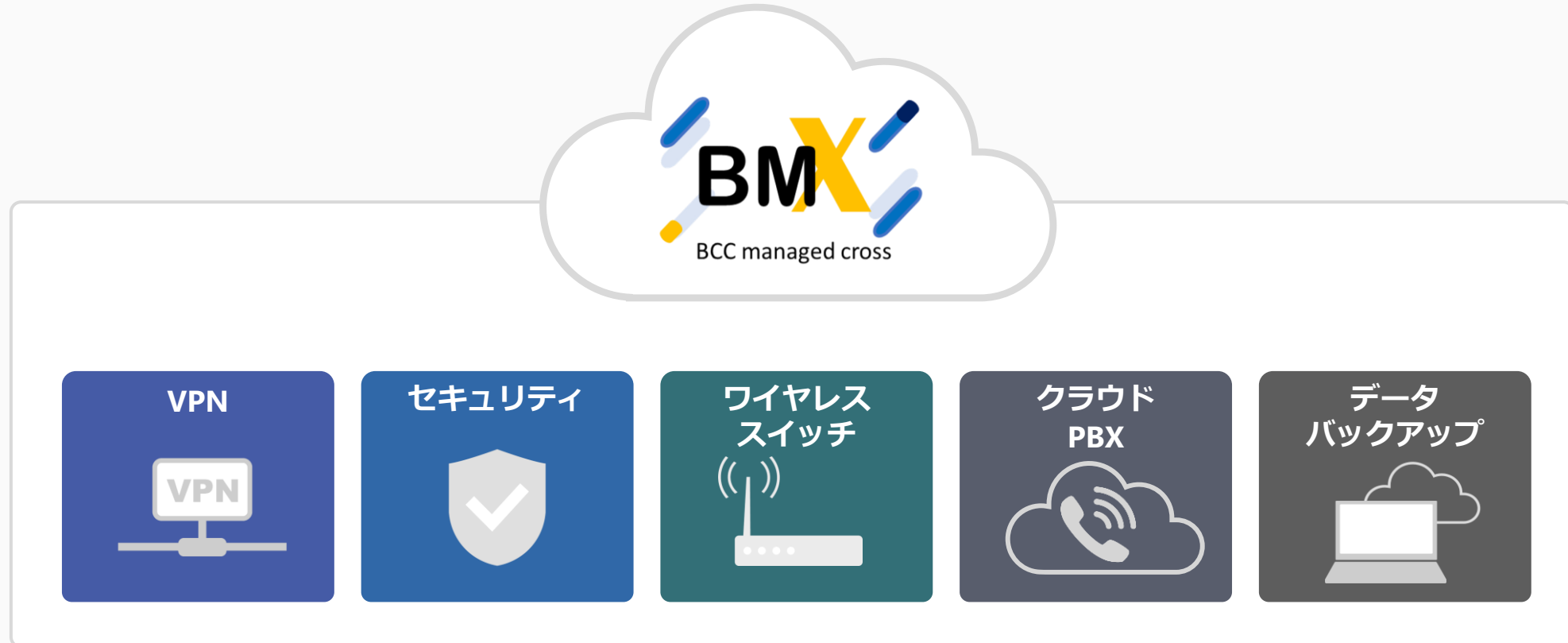
企業の数だけ課題にも種類がありますが、課題を解決するだけでなくお客様に寄り添ったサポートサービスを作りたいと思い開発いたしました。

セキュリティ・ワイヤレス・VPN・PBX・クラウドサービス等様々なネットワークソリューションの中から必要な機能だけを最適にピックアップし、ご提案できるサービスが「BM X」です。



### 必要な機能を選択し、組み合わせるだけ！

貴社のネットワークの課題を聞き出し、最適なソリューションをご提案いたします。



ネットワークに関して、機能追加もおこなえ、段階的な導入も可能です。



## BM Xシリーズのご紹介

BM Xでは2つのタイプと追加サービスをご用意しております。

### Type I ( IJ Omnibusサービス )

- ・クラウド上管理センターから貴社ネットワークの運用業務を代行します。
- ・お客様側での設定作業は不要です。
- ・フレッツ光 IPv6 IPoE 接続に対応した低遅延のネットワークを提供します。
- ・AWS、Azure、IJ GIOなどのクラウドサービスへ閉域接続ができます。
- ・クラウドサービスで、UTM、Webフィルタ、メールセキュリティの実装が可能です。

### Type M ( Cisco Meraki )

- ・クラウド上管理センターから貴社ネットワークの運用業務を代行します。
- ・お客様側での設定作業は不要です。
- ・ネットワークトラフィック、アプリケーションの可視化、制御が可能です。
- ・コンテンツフィルタ、IPS / IDS、マルウェア防御などのUTM機能を実装が可能です。

### BM X プラス

### BM X クラウドバックアップサービス ( AOSBOX )

### BM X クラウドPBX ( Voice X )

企業ネットワークに必要な機能を選択し組み合わせることで、**お客様が求めるネットワークをマネージドで実現します。**

マネージドであるため、ネットワークの運用・管理の工数を削減でき、システムご担当者様の負担を軽減できます。



## 会社概要

|         |                                                                                                     |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商号      | B C C 株式会社                                                                                          |
| 事業所     | 東京本社 : 東京都千代田区外神田 6 -15- 9 明治安田生命末広町ビル 9 F<br>大阪本社 : 大阪府中央区今橋2-5-8トレードピア淀屋橋 9 F                     |
| 創立      | 2002年3月                                                                                             |
| 代表取締役社長 | 伊藤一彦                                                                                                |
| カンパニー名  | IT営業アウトソーシングカンパニー                                                                                   |
| カンパニー長  | 松村健太                                                                                                |
| 主要部門    | ・ 営業アウトソーシング<br>・ ソリューション                                                                           |
| 許認可     | 一般労働者派遣事業（派27-302361）<br>有料職業紹介事業（27-ユ-302045）<br>プライバシーマーク認定（第10861424(07)号）<br>電気通信事業（E-28-03972） |
| 主要取引先   | 株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)<br>日鉄ソリューションズ株式会社<br>ダイワボウ情報システム株式会社<br>日本電気株式会社(NEC)<br>富士ソフト株式会社          |

